



日本赤十字社

深谷赤十字病院

日赤通り

新年のご挨拶 伊藤 博院長

- 病院内救急救命士をご紹介します
- 密着取材！脳神経外科医師の1日
- 地域医療連携だより
- INFORMATION



令和5年 新春号

Vol. 74

病院幹部職員

～ 受診される患者さまの権利 ～

1. 個人の人権を尊重した良質な医療を受ける権利
2. プライバシーが保護される権利
3. 納得のいく説明と情報提供を受ける権利
4. 自らの意思で検査・治療法などを選択、あるいは拒否する権利
5. セカンドオピニオンを得る権利



年頭の「ご挨拶」

深谷赤十字病院
院長 伊藤博

令和四年を振り返って

令和4年は前年と同様、一年間を通してコロナ対応に明け暮れた年でした。患者さん、職員共に相当のストレスがかかったことと思います。そのような状況の中でも病院として様々な事業を継続していかなければならないということもあり、職員一丸となり尽力してまいりました。

① 泌尿器科診療の充実

一番大きな事業としては、長年待ち望んでいた手術支援ロボット「ダビンチ」の導入です。社会の高齢化に伴い、この地域における泌尿器科のニーズが高くなっていることは以前より理解してまいりました。令和4年4月に千葉大学から4人の泌尿器科医師を招聘でき、それに伴い「ダビンチ」を導入し、泌尿器科関連の患者さんの受診数も飛躍的に増加しました。

② イベントの再開

感染防止対策を図りながら、少しずつ病院行事も再開されていきました。



手術支援ロボット da Vinci Xi サージカルシステム



伊藤院長

10月には、小学校高学年とその保護者を対象とした体験型病院見学会の「親子ふれあい病院体験」を、2年ぶりに開催することができました。このイベントの目的のひとつとして、当院と地域との結びつきを強化することが挙げられますが、子供たちの職業体験にとどまらず、病院での様々な体験を通じて、将来的に当院のスタッフ・サポーターとして成長してほしいという期待も込めて開催しています。今回も大勢の方に参加していただき、好評のうちに終了することができました。職員にとっても大変やりがいのある企画であり、非常に充実したイベントになったと思います。

③ コロナ対応

令和3年に引き続き、ワクチン接種についても市と協力して実施してまいりました。
また、当院は深谷地区で唯一コロナに対する入院治療を実施している病院ですが、特に他の病院で受け入れるのが難しい、透析中の方・妊婦・小児などのコロナの陽性患者さんやも圏域を越えて積極的に受け入れてきました。院内でも小規模のクラスターがしばしば発生してしまい、診療制限を行わざるを得ないこともありました。

そのような状況の中でありがたかったのが、地元医師会の先生方のご助力です。当院の発熱外来機能が手一杯になってしまった際、地元の医師会に加入している医療機関の先生方が当院の負荷を軽減するために発熱外来を再開してくださるなど、様々な支援策を講じていただきました。誌面上ではありますが、改めて感謝申し上げます。

令和五年に向けて

今年についても、コロナがどれほど影響を与えるのか分かりませんが、このような不透明な状況下でも、必要な事業は行っていかなければいけません。その中で最も重要であるのが、導入から約20年が経過した放射線治療装置の更新です。地域がん診療連携拠点病院として、放射線治療は大切な要件のひとつであり、設備投資額はかなり高額となりますが、必要な更新です。

今後の展望

私の院長としての任期もあと2年となり、将来を見据えた上で病院の方向性を決めていかなければいけない段階に入っています。鍵となるのが「医療の質の向上」と「健全な経営」です。この2つは密接な関係にあります。医療の質を担保するためには、病院の経営基盤が盤石である必要があります。



救急医療（ドクターヘリによる搬入）



親子ふれあい病院体験（結紮体験）



最後に

本年も、公的病院としての使命を果たし、地域の皆様の健康に貢献できるような医療を提供してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なぜなら経営状況が安定していないと設備投資等も行うことができないからです。日赤本日も各赤十字病院に対する経営指導を強化しています。当院の経営状況は芳しいとは言えませんが、病院機能を維持するために経営改善に注力していきたいと思えます。そのためには、新規患者・入院患者数の確保や、診療機能充実とそれに関連する各種加算算定が重要となるでしょう。それと同時に、公的病院としての役割も常に忘れてはならないと考えています。採算、不採算にかかわらず、救急医療・周産期医療・がん診療等、いわゆる「政策医療」といわれる医療に重点を置きながら診療を行っていくことが重要です。

病院内救急救命士をご紹介します



救急診療科部 救急救命士 小野田 英一

消防機関に35年勤めたのち、民間救急・NPO法人・大学で勤務する等、救急救命の分野において豊富な経験を持つ小野田英一氏が、当院で初めて救急救命士として令和5年1月に入職しました。

これまでは、救命処置の場が救急現場から病院に到着するまでの救急車内に限られていましたが、令和3年10月に改正救急救命士法が施行されたことにより、医師の指示があれば、院内（救急外来）においても救命処置を行うことが可能となりました。

病院内救急救命士とは — 主な業務内容 —

- 医師の指示のもと診療補助、救急救命処置を行うこと（救急医・看護師の補助）
- 救急診療科医師の回診・カンファレンスに参加
- 救急患者の搬送業務
- 消防署との連絡調整
- 救命救急センターにおける物品管理（救急看護師の補助）
- 救急診療に関する各種データ整備
- 職員及び当院で研修を行う救急救命士への教育、指導 など

現在、薬剤（アドレナリン等）の投与・気道確保のための気管挿管等を行っていますが、最も行うことが多い処置は静脈路確保です。



救急診療科医師と救命処置手順の確認



救急車で搬送された患者さんの初期対応



医師の指示で救命処置に参加

今後の抱負



長い間救急隊員として活動してきたので、救急隊の事情には精通しています。これから病院職員として勤めていくことで、病院（医師）側の事情についても理解を深めることができるでしょう。救急

隊と医師、双方の調整や情報共有を行い、地域各所で顔の見える関係を構築することで、プレホスピタル（病院前救護）とインホスピタルの架け橋になりたいと考えております。

また将来的には、研修医等と救急車で出動する際のコーディネーターや、BLS、ICLS等のインストラクター資格を活かした職員向け講習やOff-JTも担当していきたいと考えております。

病院内救急救命士に期待すること



副院長
救命救急センター長
金子 直之

救急救命士には、医師や看護師とも異なる能力・技術があります。小野田さんは救急隊の隊長としても活躍されていた方で、患者さんを観察する技術は特に優れているため、そのスキルを看護師に伝授してもらいたいと思います。併せて、救命救急センターの統計データの整理等、従来、医師や看護師が担っていた業務も遂行してもらうことで、適切なタスクシフトに繋げていくことを期待します。

密着取材!

脳神経外科医師の1日

～当院スタッフの「とある1日」をご紹介します～



オオタニ トシユキ
大谷 敏幸

脳神経外科医師
(脳神経外科部長・卒後30年目)

当院の脳神経外科診療について・・・

①開頭クリッピング術や脳腫瘍手術等の脳神経外科手術②コイル塞栓術等の脳血管内治療③超急性期脳梗塞に対する再開通療法(rt-PA静注療法*・機械的脳血栓回収療法*)に精力的に取り組んでいます。

* rt-PA静注療法とは・・・血栓を溶かし脳血流を再開させる薬を投与する治療のこと

* 機械的脳血栓回収療法とは・・・ステントや吸入カテーテル等を使用して、血栓を除去する治療のこと

手術を行う日

カンファレンスに参加

8:30～



外来診療や手術等の前に、脳神経外科医師同士で、前日に入院した患者さんについての情報交換を行います。この日はカンファレンスに参加した研修医に対する指導も行いました。

手術を実施

10:00～



この日は、内頸動脈狭窄症の患者さんに対し、頸部を切開した後、血管内のプラークを剥離する頸動脈血栓内膜剥離術を実施しました。

この患者さんは大動脈弓部の手術をしており、脳血管内治療が困難な方であったため、外科手術を選択しました。頸動脈治療は大谷医師が得意としている分野です。

集中治療室で術後管理を実施

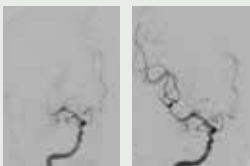
17:00～



集中治療室にて、手術を終えた患者さんの様子を確認します。神経症状だけでなく、全身状態の変化にも注意して管理しています。この患者さんの術後経過は良好に推移していました。

超急性期脳梗塞に対する再開通療法

脳梗塞で救急搬送された患者さんに、rt-PA静注を行った後、機械的脳血栓回収法を行いました。この時は若手医師が執刀医であったため、指導助手として治療にあたりました。後進の指導も大切な仕事のひとつとして熱意を持って行っています。



▲治療前

▲治療後
(血流が再開したことが分かります)

脳血管内治療を行う日

9:00～

回診を実施

脳血管内治療を行う患者さんの元に直接赴き、状態を確認するとともに、どのような治療を行うのか説明します。

▼患者さんからの声

患者を大事にする立派な先生で、毎日様子を確認するために来てくれます。一生懸命にやってくれて嬉しいの一言。治してもらって大変ありがたいです。



10:30～

救急患者対応

(くも膜下出血に対するコイル塞栓術の実施)

この日は、頭痛を訴える患者さんが救急車で搬送されたため、急患対応にあたりました。検査から脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血と診断し、脳血管内治療(コイル塞栓術)を行いました。



15:00～

脳血管内治療

(頸動脈ステント留置術)を実施

脳梗塞の予防を目的とした頸動脈ステント留置術を行いました。これは、バルーン付きのカテーテルを、狭くなってしまった内頸動脈に到達させて狭窄部分を広げた後、ステントを留置し、血管の拡張を維持させる治療法です。傷が少ない低侵襲な治療のため、患者さんの負担も少なく済みます。



現在の脳神経外科メンバー

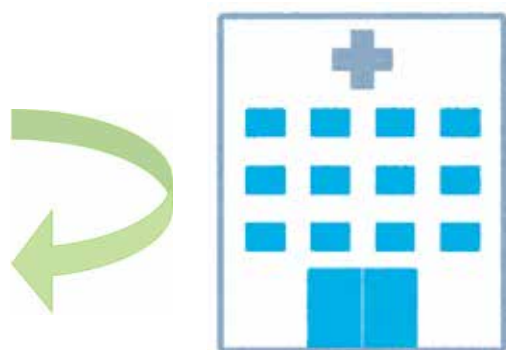
▶写真右から
大谷 敏幸 部長
中沢 尚彦 医師
宮原 友輝 研修医
込山 和毅 医師

脳神経外科はチーム医療であるため、チーム力向上に日々努めています。



地域医療連携だより

深谷赤十字病院は地域との医療連携に努めています。



当院は、初期診療や慢性の継続診療などは、「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行っており、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

毎号、医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介しています。

くろや整形外科医院

住 所 〒369-1108 深谷市田中2643-8
電 話 048-583-5888
理 事 長 黒屋 進吾
院 長 黒屋 信隆
診 療 科 整形外科、リハビリテーション科
休 診 日 日曜、祝日、木曜、土曜午後
診 療 時 間 午前8時45分～12時30分
午後3時～6時



理事長先生からのメッセージ

当院は1993年に開院、2022年7月にリニューアル致しました。急性～慢性期疾患、小児疾患、骨粗鬆症など、ご相談ください。患者さんが安心・信頼し通院できるよう、前医院のアットホームな雰囲気を残しつつ、新しい治療を取り入れてスタッフ一同、誠意を持って診療させていただきます。

白倉歯科

住 所 〒366-0801 深谷市上野台608-15
電 話 048-574-8088
院 長 白倉 澄子
診 療 科 歯科、小児歯科、口腔外科
休 診 日 日曜、祝日、水曜、土曜午後
診 療 時 間 午前9時30分～12時 午後2時～6時
土曜の午前は9時30分～13時



院長先生からのメッセージ

当院では一般歯科治療の他、顎関節症、睡眠時無呼吸症候群の治療、口腔内小手術にも対応しています。生まれ育った深谷に開業して27年となります。今後も常に患者様の気持ちに寄り添い、まごころをこめて診療を行ってまいります。

<地域の皆様へのご案内>

当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科7,700円・歯科5,500円）のご負担がなくなります。



森医院こどもクリニック

住 所 〒360-0816 熊谷市石原100-1
電 話 048-599-3344
院 長 森 庸祐
診 療 科 小児科
休 診 日 日曜、祝日、水曜（第2、第4水曜午前は熊谷市乳幼児個別健診実施）
診 療 時 間 午前：月・木・土 9時～12時
火・金 10時～12時（8時～9時30分コロナワクチン）
午後：月・火・木・金 16時～18時
健診・予防接種 14時～16時



院長先生からのメッセージ

「地域の子どもたちやご家族の応援団としてお役に立てたらよいなあ」と考えながら日々診療しています。深谷日赤さんが後方待機してくださっており、かつ連携が良好なので、安心して一次医療の現場で頑張ることができます。患者さま皆さまどうぞ安心して御受診ください！

鈴木外科病院

住 所 〒367-0217 本庄市児玉町八幡山293
電 話 0495-72-1235
院 長 鈴木 和喜
副 院 長 鈴木 敏彦
診 療 科 外科、消化器外科、麻酔科、乳腺外科、
整形外科
休 診 日 日曜、祝日、土曜午後
診 療 時 間 午前9時～12時 午後3時～5時



院長先生からのメッセージ

当院は大正12年に開業して以来99年間、外科のかかりつけ医として診療を行っています。院長（外科）、副院長（麻酔科）、および消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、整形外科、消化器内科の非常勤医師で主に外科系の総合診療を行っています。





INFORMATION

令和4年10月1日から、国の制度見直しにより、紹介状を持たずに外来受診する患者等の「特別の料金」の額が引き上がりました。

初診時選定療養費

○ 紹介状を持参せずに受診された場合

※注 診療科ごとのご負担となります





2022年9月30日まで		2022年10月1日から	
 医科	5,500円 (税込)		7,700円 (税込)
 歯科	3,300円 (税込)		5,500円 (税込)

また、令和5年1月4日より、当院の発熱外来を受診される際にも「初診選定療養費 (7,700円)」の負担が生じます。予めご了承ください。



再診時選定療養費

○ 状態が落ち着き、当院担当医が他の医療機関へ紹介を申し出た後も当院での診療を希望し、受診される場合

2022年9月30日まで		2022年10月1日から	
 医科	2,750円 (税込)		3,300円 (税込)
 歯科	1,650円 (税込)		2,090円 (税込)

上記の改定に伴い、診療時間外 (夜間や休日) の時間外選定療養費についても、令和4年10月1日から改定しました。

時間外選定療養費

○ 緊急やむを得ない場合を除き、時間内に受診して下さい。時間外受診を希望される患者様には「時間外選定療養費」をお支払いいただきます。

	2022年9月30日まで		2022年10月1日から
	5,500円 (税込)		7,700円 (税込)

医療機関の機能・役割に応じた適切な受診を行うようお願いします。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

深谷赤十字病院の理念と基本方針

理念

人道・博愛の赤十字精神のもと、地域の皆様の健康を守り、信頼される医療を提供します

- 基本方針
- 1 医療人として生命倫理を最大限尊重します
 - 2 医療の質の向上に努めます
 - 3 患者中心の医療を行います
 - 4 地域との医療連携に努めます
 - 5 災害救護と国際活動に貢献します
 - 6 健全経営による働き甲斐のある病院を目指します

深谷赤十字病院臨床研修の理念と基本方針

理念

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できる診療能力を身につける。

- 基本方針
- 1 基本的診療能力の習得
臨床医として将来専門とする分野に関わらず必要な基本的診療能力を習得する。
 - 2 患者の立場に立った医療の実践
医師として患者から人間としても信頼される思いやりの心を持った謙虚な医療人となり、患者の立場に立った医療を実践する。
 - 3 チーム医療の実践
チーム医療の大切さを理解して病院内の他職種と連携を密にしてコミュニケーションを取りながら安全な医療を提供する。
 - 4 地域医療に貢献
地域の中核病院としての役割を理解し、地域医療に関心を持ち、地域医療の現場を経験する。
 - 5 赤十字病院の責務や理解
赤十字病院として公的病院の責務や災害時における医療救護活動を理解する。
 - 6 生涯学習の継続
質の高い医療を提供できるよう、生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を実践し、医療技術の習得に努める。また、後輩を育成することによって自らが学ぶ姿勢を有する。



深谷赤十字病院

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1
Tel 048-571-1511 (代)
<http://www.fukaya.jrc.or.jp/>

Vol.74 令和5年2月10日発行
編集発行：深谷赤十字病院
広報・公聴委員会